

大阪ガス株式会社（9532）

2024年3月期第3四半期決算

投資家・アナリスト向け説明会 主なQ&A（2024年1月30日開催）

Q1:第3四半期の電力事業について、上期に比べて利益の伸びが鈍化している理由を説明してほしい。

A1:上期の電力事業は、需給調整市場での利益があったことにより、一時的に利益の伸びが大きくなっている。一方で、第3四半期は、上期にメンテナンス中であった石炭火力発電所が、昨年度の高価格な石炭在庫を抱えて運転再開し、一時的に利益が悪化している。これらの要因により、第3四半期の電力事業の利益の伸びが鈍化している。

Q2:第4四半期の国内エネルギー事業について、ガスの需要期にもかかわらず、赤字になっている要因は？

A2:第4四半期の国内エネルギー事業は、タイムラグ差損が大きく、諸経費などの費用も多く計上されることから、赤字となる見通しである。

Q3:第4四半期の営業外損益の見通しが保守的に思えるが、何か減益要因があるのか？

A3:第3四半期までの営業外損益の増益136億円の要因は、原料関連の為替差益や金利上昇による受取利息、政策保有株式の売却益などである。今回の見直し修正では、これらの増益の一部を織り込み、営業外損益を85億円上方修正したものの、為替や金利は今後も変動する可能性を踏まえ、第3四半期実績の増益をすべて織り込んだものではない。そのため、第4四半期の営業外損益の見通しが保守的に見えている。為替や金利などの市況次第では、第3四半期までの増益分が、そのまま残る可能性もある。

Q4:第4四半期に計上する見込みの特別損益の内容は？

A4:イギリスの水道事業売却による売却損を、特別損失として第4四半期に計上する見込みである。

Q5:最近よく話題になっているPFAS（有機フッ素化合物）規制について、活性炭事業を営むJacobiの戦略や将来の収益想定は？

A5:弊社子会社の大阪ガスケミカルとJacobiにおける活性炭事業の市場シェアは大きい。活性炭がPFASの吸着・除去に利用できるという期待が高まっており、需要獲得に向け検討を進めている。まだ具体的な数字をお示しできる段階にはないが、機会は捉えていきたい。

注意事項：本書に記載される情報は、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。